

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29 年 5 月 10日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200445		
法人名	株式会社 富山学園		
事業所名	グループホーム ほのぼの苑五日市八幡		
所在地	広島市佐伯区八幡5丁目16番地10号 (電話) 082-927-8400		
自己評価作成日	平成29年4月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200445-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200445-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年5月8日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

住宅地にたたく家庭的な雰囲気のホームです。利用者様同士が声をかけ合い、楽しく暮らせるよう職員は温かい支援に努めています。生活の中で3度の食事は楽しみの一つ、職員手作り1汁3菜の栄養バランスを考えた食事を提供しております。利用者様も下ごしらえや盛付けなどに参加され職員と一緒にしています。利用者様が自信と誇りを損なわれないように健やかな生活を過ごして頂くようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者本位のケアプランを作成し実施することを重視し、利用者の思いや意向を利用者本人・家族・職員に確認しケアプランに反映させている。利用者が今まで行っていた掃除や料理を日常的に行うことで、利用者が自信や誇りを持てるように配慮している。事業所の菜園で収穫した野菜、家族からの差し入れなどによる新鮮な食材を用いて食事を提供している。毎月、事業所独自の避難訓練を行っているが、特に夜間時の災害に備えて夜勤者全員が訓練を体験できるように日時を設定し実施している。

自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	開所時職員でBS方式による「理念」をつくり毎朝朝礼で唱和し、常に「基本精神」を位置づけ日々の業務にあたっている。	事業所開設時に、職員全員で事業所理念を作成し、毎朝、唱和し共有している。理念の中で「笑顔と思いやり」に関しては、「利用者に配慮した言葉使いをする」を職員全員で共有し、実践するよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入している。町内のまつり、餅つき大会、ぜんざい会等に積極的に参加し地域の方と交流を図っている。	町内会に加入し会議にも参加し、有価資源ゴミの収集には、利用者也協力している。町内の行事には利用者も参加し、地域住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	インターンシップの受入れを行い運営推進会議には勉強会をもうけ地域の方に向けて活用している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では出席された地域の方、ご家族から一言ずつお話をして頂き教えて頂くこともあり会議で頂く意見はスタッフ会議で全員に伝達し今後のサービス向上に努めている	毎回テーマを決めて講師を招聘し講演を行い、参加者と意見交換している。講師の提案を職員会議で協議し、サービス向上に活用している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市担当者に運営推進会議の報告を行い苑でのサービスの内容を把握して頂き協力関係ができるように取り組んでいる。また地域包括センターの方から情報を頂いている。	運営推進会議の議事録は毎回、市へ報告している。介護保険認定時に市介護課を訪問した際には、市職員と情報を交換している。地域包括支援センター職員に運営推進会議での講演を依頼したこともある。	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全員に身体拘束は行わない方針を周知している。玄関の施錠についてはやむを得ず施錠しているが、中庭の扉については開放し、自由に出入りして頂いている。	職員会議で身体拘束に関する勉強会を行い、身体拘束に関するマニュアルを職員と共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員や家族から介護上、身体拘束の必要性が提案された際には、職員会議で協議し、身体拘束をしない対応を行っている。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者のお宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎月のスタッフ会議で「虐待の芽チェックリスト」を行い日々のケアを振り返り自分自身の反省を話しスタッフ全員で共有し防止に努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	運営推進会議に市職員より成年後見人制度の勉強会を行いスタッフに伝達報告し情報を共有している。又、広島市よりの成年後見人制度のパンフレットを受付に置いている		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は管理者、計画作成担当者、利用者側2名で十分な説明時間をとりながらご家族の不安解消や理解、納得して頂くように努めている		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常的にご家族の面会が多く、都度ご要望をうかがえる環境にあり、運営推進会議、家族会に於いても意見を頂くようにし、運営に反映させていくことができるように努めている。	利用者への面会時やケアプラン見直し時に家族からの意見・要望を聞いているが、その際には、管理者・ケアマネジャーが対応している。	

自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の定期的に関くスタッフ会議には必ず代表取締役・統括の出席を仰ぎ職員の意見や提案が届くように配慮している	月1回開催される職員会議には、職員全員が参加して行われ、その際に職員の意見を聞いている。また管理者は、申送りの際にも職員の意見を聞くようにしている。職員からの提案で、「利用者介護日誌」を簡素化することを検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人の勤務希望を配慮し労働しやすい条件を組んでいる。代表者は賞与等に日頃の努力、実績を反映させ職員の向上心を上昇させるべく整えている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	本社より研修会を設け、必要と思える研修には個別に対応している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	佐伯区グループホームネットワークに参加し、同業者と情報交換をおこなっている。グループホームネットワーク主催の講演研修会に参加している		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所時、面談を行いどのような生活を望んでおられるかを確認し、環境の変化、日常の不安に耳を傾けることで安心できる環境を整えている		

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面談の機会を多く設け、苑に対する要望を確認している。ご本人、ご家族の不安な思いをお聞きし、相談しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族の要望をお聞きし、身体機能、認知症症状を把握した上で必要な支援は何か総合的に考えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食事作り、後片付け、掃除、洗濯干し、たみ等利用者様ができる事は積極的に声かけ一緒に行い、家庭的な雰囲気作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会等に来られた折、苑での日常生活の様子を報告し、ご本人の思いも報告しホームの職員も一緒になって支援しよう心かけている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	なかなか会えない友人と電話で話しされ、関係作りを維持されている。	今まで食事に行っていた場所に家族と一緒に出かけ、お盆のお墓参りや正月の行事は家族と過ごせるように配慮し馴染みの関係が継続できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	自然と気の合う方々同士がお互い声を掛け合ったり、協力し合える場面が多くみられる。交流が苦手な方もレク活動で関わるの場を支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も必要に応じて相談を受け少しでもお力になれるよう努力している。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプランに本人様の意向を反映できるように日常生活の中から表情や会話など言葉に出されない思いを把握し職員間で情報を共有している	利用者の思いや意向は、ケアマネージャーが利用者本人に確認したり、家族への聞き取り、職員に対する聞き取りにより把握し、ケアプランの作成に活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を用いたり、入所前どのように暮らしておられたのか本人様、家族様にお聞きして生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	身体、生活状況の変化を介護記録に残し職員間で話し合い情報共有し意識統一を図っている		

自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人様・家族様の意向、職員による日々の評価、気づきなどをもとにケアプランを作成し、担当者会議で本人・家族様に分かりやすい言葉で表現し意見が出やすいようにしている。</p>	<p>ケアプラン見直し時には、家族と面談し家族の意向を確認した上で、プランに反映している。また、各利用者の「ケアプラン実施状況」を毎日チェックし、モニタリングに活用しケアプランの見直しに役立てている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケアプラン実施表を作成し、介護計画に添ったサービスの実施・気づきなどを記録している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>常に本人様の思いに耳を傾け状況に応じてサービスの活用にも努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の行事に参加させて頂いている。町内会の有価資源ごみの収集にも協力させて頂いている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入所時、苑の協力医の説明を行うと同時に本人様のなじみのかかりつけ医を設定されることも自由である旨を説明している。また協力医とは24時間の連絡がとれ緊急時の対応も行っている。入院先の確保にも安心して相談できるよう支援している。</p>	<p>本人・家族の要望でかかりつけ医を決めている。事業所協力医をかかりつけ医としたり、今までの主治医を継続する利用者があるが、看護師は各々のかかりつけ医と連絡を取り対応している。看護師は利用者の健康状況を把握している。</p>	

自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b>  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎朝の申し送り時には職員のその日の気づきを発表する場があり、少しの変化も看護師と連絡をとるような体制が整っており、早期発見と治療に役立っている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b>  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームの生活・医療等の情報提供を行い、家族様、病院と連絡をとり本人のADL、体調面の状態の情報を得ている。状況に応じて早期退院が出来るように提案している。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b>  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時には「重度化」についての説明を行い必要時には家族様や医師・職員と話し合いを持ち施設としての対応を十分納得して頂くまで行っている	重度化した際には「重度化した場合における対応に関する指針」を説明し、家族の意向を確認している。また、主治医は利用者の状況を家族に説明して、家族と支援方法を協議し、それに沿った支援を行っている。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b>  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルがあり急変時には対応できるように職員全員で訓練している。		
35	13	<b>○災害対策</b>  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防訓練は毎月昼間に入居者様、職員で行い、夜間での訓練は夜勤者全員が行うよう毎月5日から9日に設定している。年数回消防署の方に来苑して頂き訓練の指導を受けている	消防署立ち合いの下に、年2回避難訓練を行っているが、その内1回は、運営推進会議と同一日とし出席者も参加して行われる。更に、事業所独自の避難訓練を毎月5～9日に実施し、夜勤者全員が体験できるように日時を設定している。災害に備えて非常食を備蓄している。	



自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	お一人おひとりに合った言葉かけを心がけている。職員全員で行う「虐待の芽チェックリスト」で1か月の介護を振り返り、慣れ合いにならないよう支援に努めている。	職員が日常業務で、利用者の人格・プライバシーを尊重しているかを「チェックリスト」を用いて自己評価し、サービス向上に努めている。広報誌・事業所内での写真掲載に関しては、利用者・家族の同意を確認し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員と1対1になる入浴時はくつろいだ気持ちになられ自然な思いを語って頂ける事が多く、できるだけその思いを具体化できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々のペースを優先し体調や希望に沿った生活の支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	更衣時には自分の好みの洋服を選んで頂いたり、訪問理美容に来苑して頂き、いつも綺麗にいて頂くよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節の食材や利用者様の好評メニューを献立に取り入れて調理、配膳、片付けなど一緒に行っている。	事業所の菜園で収穫した野菜、家族からの差し入れによる新鮮な食材などを使用して、職員手作りの食事を提供している。時には、すぐ近くのレストランで食事を楽しむこともある。	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一食を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>水分は1日1500ccを目標とし、水分量、食事量を記録し一人ひとりの咀嚼、嚥下状態に合わせた食事形態に対応している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後口腔ケア時は職員の仕上げ磨きを行っている。月2回協力歯科医院より訪問口腔ケアを受診され口腔内のチェックをされている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表で個々のリズムを把握し、トイレ誘導を見直し、紙パンツから布パンツへの移行に努めている。</p>	<p>利用者の排泄パターンを把握してトイレ誘導を行っている。事業所内の「パット委員会」では、利用者に適した衛生用品を提案し、家族に報告後、利用者を使用している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>繊維質の食材を出来るだけ多く使用し、朝食には必ず乳酸菌を提供し適度な運動を働きかけながら自力排便できるよう支援している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴の声かけに気分が乗らず、お断りされる時は時間、日を変える工夫をしている。又入浴はご自分の出来るところはして頂き手の届かない出来ないところをお手伝いしている。</p>	<p>利用者からの要望があれば同性による入浴介助を行っている。入浴を拒否する利用者に対しては、家族にアドバイスを求めるなど工夫をして対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中は居室に閉じこもることなく皆さんと一緒にリビングホールで楽しく過ごして頂いているが、傾眠されている時は声掛けし、本人の意思に沿った支援を行い気持ちよく休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬チェック表を作成し、看護師が準備し担当者がチェック、介護スタッフのチェックと3重の確認後、利用者様のもとへ提供している。薬局から毎回提供される薬の説明書を各利用者様のファイルに保管し、いつでも見れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	役割を持ち、生活に張り合い・達成感を感じられるような関わりを心掛けている。センター方式を用いて個々の嗜好の把握に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご家族の協力もあり墓参り・買い物・ドライブ等に出掛けられる利用者様も多い。	利用者の要望を家族に伝え、家族と一緒に買い物・ドライブ・外食に行けるように支援している。利用者の気分転換の為に、近所の庭を見学したり、事業所内の庭を歩くようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人・ご家族の希望があれば、小銭程度の自己管理をしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご本人より希望あれば、苑の電話を使用して頂き、お手紙等も届けば本人にお渡しし、お返事を書いて頂けるよう支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>各ユニットより中庭へ自由に入出りができ、季節の花を見ながらのコーヒータ임을過ごして頂いている。</p>	<p>利用者と一緒にほぼ毎日、施設内を掃除し清潔に保つよう努め、トイレを清潔にして臭いが無いように配慮している。西側にあるユニットでは、利用者がまぶしくないように強い日差しを遮るようにしている。リビングには観葉植物を飾っている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングにはソファやテレビを設置し利用者様同士でお話しを楽しんで頂くよう配慮している。居室で一人ゆっくり過ごしたい時は無理強いせず対応している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>好みの物や馴染みの物をお持ち頂く等、居室はご自分の居心地良いように自由に使っていただいている。</p>	<p>読書用の机、家族の写真、仏壇など利用者が今までの生活で使用していた物を持ち込んで、利用者が落ち着いて生活できるよう配慮している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>独歩の方や車椅子の方が移動しやすいように廊下やリビングを広く、又、トイレにはファンレストテーブルを設置して安全を確保し、自立した生活が送れるよう支援している。</p>		

V アウトカム項目( 東ユニット ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームほのぼの苑五日市八幡

作成日 平成29年 6月 12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	アンケート7	本人は戸外の行きたいところに出掛ける	遠方の希望はご家族の協力を得る。	・本人の状態に合わせたペース、距離で散歩する。 ・天候の可能な限り戸外に出掛ける。	半年
2	1	理念をサービス提供に実践する	理念を職員が浸透し共有したケアをする	職員が理念に添った同じケアを行う	半年
3	12	各ユニットの業務に違いがある	緊急時に職員一人ひとりが利用者様の個々の対応が柔軟に出来る	・業務の見直しを検討する。 ・職員のユニット移動を検討する	1年
4	26	ご本人、ご家族の意向、職員の気づきなどをもとにケアプランを作成しているがその結果評価を伝える機会が少ない	ケアプランに添ったケアを行い経過、結果をご家族に報告する	・職員からの毎月の便りで様子を報告する ・こまめな連絡をとり家族との絆をつくり、面会回数が増える	半年～1年
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。